



最新

インターネット技術が もたらす ライフスタイル革命

第1回

いつでもどこでも自分のデータにアクセスできる生活

100メガの高速インターネットがそこまでやってきた。ADSLのおかげで“つながりっぱなし”はもう常識。じゃあ、そのインフラで何をする？ ウェブやメールじゃあもったいない。今こそ、この高速インターネットを使って、新しい価値を“錬金”するのだ。まずは、ネットにすべてのデータをあげることで生まれる新しい価値を探してみる。

インターネット生活研究所

この連載は、インターネットによって生活に新たな風を吹き込むことを目的としたシンクタンク「インターネット生活研究所」によって作られています。このシンクタンクの研究者は、インターネットを生活に活かしている一般の方を中心に構成され、誰でも参加可能。詳しい活動内容は [URL](http://internet.impress.co.jp/iil) <http://internet.impress.co.jp/iil> にて報告しています。

端末からデータを解き放つことで生まれる新しい生活



オンラインストレージはただの「データの倉庫」ではなくっている

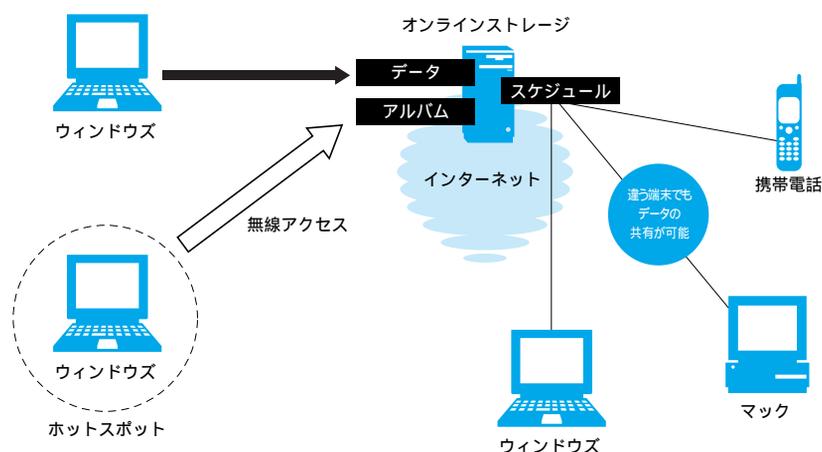
パソコンなどの端末から、ネットワークにデータを解き放ち、新しい価値を生み出そうという動きが活発になっている。なかでも、オンラインストレージはこのことを実現する身近な方法と言っていいたい。オンラインストレージとは、インターネット上にディスクを設けそこに自分に必要なデータを入れておけばいつでも引き出せるという、インターネットならではの利便性を提供するサービスだ。最近では、ただ単にネットワーク上に「データの倉庫」としてのスペースを設けるだけでなく、その上に独自のユーザーインターフェイスをかぶせ、新たな価値を提供するオンラインストレージも現れている。これらのサービスはそのユーザーインターフェイスによって、スケジュール帳機能、アルバム機能なども提供する。この機能は基本的にHTMLベースで提供されるため、マックであろうがウィンドウズであろうが、たとえばiモードなどのブラウザフォンであってもデータを参照、

追加できるようになっているのだ。さらに、このオンラインストレージを自分の友達や仕事相手に公開して、データやスケジュールを共有するというのも新しいネットワークとのかかわり方だ。たとえば、いつも外回りしている営業担当者、マックユーザーの社外デザイナー、ウィンドウズユーザーのコピーライターの3人で、広告を作るプロジェクトが稼働したとしよう。社内に、ファイルサーバーを作ってデータを共有してプロジェクトをすすめるという手もあるが、これは個人のデータを「とりあえず」バックアップしているだけの「ゴミ箱」になる可能性が高い。そもそも、社外のデザイナーはアクセスできないし、やはり独自のユーザーインターフェイスなどでスケジュールの共有までを行いたい。そうになると、選択肢はオンラインストレージに絞られてくる。まずは、全員のスケジュールを1つのオンラインストレージで管理するというルールを作っておく。そうすれば、わざわざ電話などで、「日の何時にミーティングをしたい」と声をかけなくても、共有されたスケジュールを見ながら空いてい

る場所にミーティングの予定を入れていけばいい。もちろん、これらのスケジュールはマックでも、ウィンドウズでも、携帯電話でもアクセスできるのが便利なポイント。また、外出先からも「ホットスポット」などの無線LANスポットを使ったアクセスが可能だ。あとは、全員がそれを見て、一所に集まればいいだけ。いや、使っているオンラインストレージによっては集まる必要すらないかもしれない。オンラインストレージに必要なデータを入れておき、3人各々が別々の場所でのそのデータを見ながら、チャットなどを使って打ち合わせをしていく。そういった、場所や時間を越えたコラボレーションを可能にしてくれるのがオンラインストレージなのだ。

「上り回線」重視のネットワークの使い方が新しい価値を生む

本誌インターネットマガジンでも以上にあげたようなネットワークとのかかわり方を、インターネットの「2ndステージ」として打ち出している。特に、ネットワークに積



オンラインストレージは、そのサービス形態にもよるが、基本的にどの端末からでもアクセス可能。グループでデータを共有しておけば遊び、仕事ともに、仲間との「コラボレーション」をベースにした生活ができるようになる。

極的に参加することが重要になると、「下りのビットレートだけでなく、上りの帯域を使いこなすことが重要なのではないか？」という記事を多く展開してきた。また、NTTコミュニケーションズが提示するパーソナルソリューションの新コンセプト「CoDen(個電)」も、同社のオンラインストレージサービス「cocoa」を使って、データを積極的にネットワークにあげることで、そのユーザーだけのネットワークの使い方を見つけてもらおうという提案だ。ここでもネットワークに参加するために、やはり上りの速度が重要になっている。

ただし、なにもファイルサーバーやオンラインストレージだけが、この「上り回線を重要視する」というネットワークとのかかわり方ではない。たとえば、P2Pネットワークを使ったソフトウェアも上り回線を積極的に使って、データの管理や共有を行う

技術だ。P2Pというと、すぐに思い浮かぶのが「WinMX」などのファイル交換ソフトだが、これらは単にネットワークを介して“データを交換する”だけのものだ。その上に全員の予定が把握できる共通スケジュール機能や、遠隔地にいてもグループで同時に書き込めるホワイトボード機能と言ったインターフェイスをかぶせて、新しい価値を生み出そうとしているソフトも現れている。もちろん、オンラインストレージに比べてP2Pソフトのほうが優れているというわけではなく、それぞれに一長一短がある。たとえばP2P型ではデータを共有しながら、リアルタイムでコミュニケーションをとれるなどの、オンラインストレージでは実現しにくい機能があるが、大きなデータを共有しようすると、各端末にそのデータが送られて、ハードディスクを圧迫するなどのデメリットも同時に存在する。



NTTコミュニケーションズが提供するオンラインストレージ「cocoa」。データを保存するだけでなく、スケジュール、アドレス帳、アルバムといった機能があり、友達などと共有すれば、グループのポータルサイトとして機能する。

これら、積極的にネットワークに参加する方法のメリット、デメリットを見分けて、自分の考えている使い方などのような技術が最適なのかを判断することが、ネットワークを使って仕事、生活の環境を改善していくことの重要なポイントになるのだ。

Life Figure Revolution

オンラインストレージを使うからこそ可能な生活スタイル

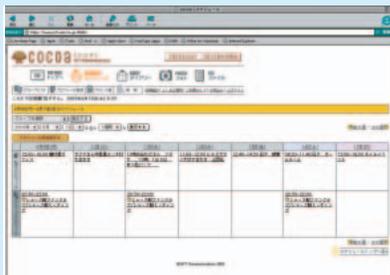


DTPデザイナー、柘植ヒロポンさんの場合

「確かに仕事でマックを使っていますけどDTP(デスクトップパブリッシング)以外の使い方はちょっと……。」という柘植ヒロポンさんはオンラインストレージ「cocoa」を使ってスケジュール、アルバムなどを友達と共有している。アルバムやダイアリーも一通り使ってみたが、もっとも便利だったのがスケジュールの共有機能。

「友達に教えてもらって契約したんですけど、最初は『オンラインストレージって何?』って感じでした。ただ、仕事柄時間が不規則で、なかなか友達と遊ぶ時間が作れない。そこでcocoaのスケジュールを友達と共有しておいて、『わたしはこの辺が暇だから時間あけといて!』とメールで伝えることで、かなりの高確率で遊べるようになりましたよ。友達はウィンドウズを使っ

ていて、いままでなかなかパソコンで同じサービスを受けることはできなかったんですけど『cocoa』なら、マックでもウィンドウズでも同じように使えるのがいいですね。それに携帯電話からでもスケジュールなんかが見られるのもうれしい。友達が携帯から、わたしとのスケジュールを共有して



これがヒロポンさんの一週間のスケジュール。公開されるとヤバイという内容は削ってもらったので、なんだか遊んでばかり……。

いる。これが、ライフスタイル革命って言えばそうなのかも」と、あまり自覚はないながらも、オンラインストレージで新しい価値を生み出しているのだ。



DTPデザインの伝道師、柘植ヒロポンさん。マックはデザインのためにあると豪語。

SE、宗像俊之さんの場合

これまで紹介したサーバーを使ったデータの共有以外にもP2Pネットワークを使ったデータの共有方法もある。P2Pは一般的に不正な音楽コピーツールとしてイメージされることが多いが、本来はサーバーを使わずに、クライアント同士で情報を共有するためにある技術なのだ。

ここで紹介する宗像さんは、P2P技術をベースにソフトウェアの開発を行うアリエルネットワークス社に勤務するSEだ。彼がデータをオンライン化する方法は、自身が開発に携わるP2P型グループウェア「アリエル・エアワン」。

「オンラインストレージを使って仕事のデータを共有するという選択肢もあったんですが、わたしの場合はデータを見ながらソフト上でディスカッションする機能が必要でした。こういうリアルタイム性の高いコラボレーションをするのなら、データもP2Pネットワークで共有しておいたほうがいいですね。ただ、重いデータを共有す

るとなるとオンラインストレージを使います。というのもP2Pでは、ネットワークにつながっている各端末にすべての共有データが保存されますから、本来必要のないデータまでがパソコンに落ちてくる。そうするとハードディスクはかなり圧迫されますからね」と宗像さんは言い、オンラインストレージとP2Pネットワークの使い分けを提案してくれた。



宗像俊之さんはクリエイエでオンラインサーバーにMP3をデータ置いて、どこからでも開けるようにしようとしている。



P2P型グループウェア「アリエル・エアワン」は、データを共有するだけでなく、メンバーのスケジュールを共有した(写真右)エアワン上でディスカッションしたりもできる(写真左)。

まだまだ、やることはやまほどある

オンラインストレージを使うことで、ウェブやメールだけでないインターネットの新しい価値が現れることはわかっただろうか。ただし、この価値はただ技術という「素材」を利用しただけでは生まれてこない。

今回紹介した例で言うと、いままでのデータを貯めておく「スペース」でしかなかったオンラインストレージという技術に、「スケジュールとして使う」などのコラボレーションのアイデアをかぶせることで、誰でも共有できるグループウェアという新しい価値を生み出している。つまり、すでに素材＝技術はそろっているのだ。あとは、それを使いやすくする新たな料理方法を考えだすだけだ。その料理方法さえ出さずえば、現在ある素材＝技術が、我々の生活、仕事に大きな変化をもらし

てくれるのだ。

今回の記事をヒントに「これこそ革命を起こす料理方法だ」と思いついたら、是非、60ページの「CoDen presents/インターネット ライフスタイル・アワード」募集要項を見てもらいたい。ここでは、ネットワーク生活を向上させていく、その料理方法を随時募集している。

インフラや技術などの素材は整った。あとは、その素材をどう料理して、ライフスタイル、ワークスタイルに革命を起こすかだ。その最後のピースを私たちと一緒に考えてほしい。インターネットという素材には、まだまだやることが山ほどあるのだから。

➔ 60 ページへ



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp